

美浜町まちづくりミニフォーラム

報 告 書

平成 24 年 3 月

美 浜 町

日本福祉大学福祉社会開発研究所
まちづくり研究センター

はしがき

美浜町では、第5次美浜町総合計画の策定にあたり、地域にかかわる様々な立場の住民が中心となって、地域の資源や課題を発見し、再評価しながら、住民一人ひとりが「これからも住み続けたい」と実感できるまちづくりの方向性を議論するために、まちづくりワークショップとまちづくりミニフォーラムを開催した。具体的には、美浜町内の6地区を対象とした『地区別まちづくりワークショップ』、美浜町の将来を担う中学生を対象とした『まちづくり次世代ワークショップ』、美浜町内で活動する生産・経済団体と住民団体を対象とした『まちづくりミニフォーラム』である。

まちづくりミニフォーラムでは、まちづくりの現状と課題、連携強化に向けた意見交換の機会として、美浜町で活動している生産・経済団体から5団体、住民団体から10団体の関係者が参加した。内容は、各団体の活動内容、活動の現状と課題、美浜町の発展に必要な事柄を紹介した後、参加者全体で課題解決に向けた連携の可能性、今後のまちづくりの方向性に関する意見交換に取り組んだ。

まちづくりミニフォーラム

日 程 平成 24 年 2 月 7 日 (火)
開催時間 10 : 00 ~ 15 : 30 (午前の部 10 : 00 ~ 12 : 00 / 午後の部 13 : 30 ~ 15 : 30)
当日進行 日本福祉大学まちづくり研究センター長・国際福祉開発学部教授 千頭聡

まちづくりミニフォーラムの開催趣旨

まちづくりミニフォーラムは、第 5 次美浜町総合計画の策定に向け、美浜町内で様々な活動に取り組む関係団体を対象に、美浜町の将来展望を視野に入れながら、まちづくりの現状と課題、行政との協働および連携関係の強化などについての意見交換を図ることを目的に開催した。

プログラム

午前の部 (生産・経済団体)

- ◆ 10 : 00 挨拶、まちづくりミニフォーラムの趣旨説明
- ◆ 10 : 05 各団体発表 5 団体×15 分 (90 分)
- ◆ 11 : 35 全体討論 (25 分)
- ◆ 12 : 00 まちづくりミニフォーラム午前の部終了

午後の部 (住民団体)

- ◆ 13 : 30 挨拶、まちづくりミニフォーラムの趣旨説明
- ◆ 13 : 35 各団体発表 10 団体×9 分 (90 分)
- ◆ 15 : 05 全体討論 (25 分)
- ◆ 15 : 30 まちづくりミニフォーラム午後の部終了

参加団体及び参加者

<午前の部 生産・経済団体関係者>

1. 美浜商工会 会長 加藤昌宏
2. 美浜商工会 事務局長 宮本優子
3. 美浜町観光協会 会長 渡邊日出雄
4. 美浜町観光協会 副会長 山田 勇
5. 美浜町観光協会 副会長 原 義治
6. あいち知多農業協同組合 美浜事業部長 奥村賢一
7. あいち知多農業協同組合 営農センター長 間瀬清治
8. 美浜町漁業協同組合 代表理事組合長 竹内和雄
9. 南知多ビーチランド マネージャー 斉藤敬一郎

<午後の部 住民団体関係者>

1. 美浜町区長会 会長 小笠原政美
2. 美浜町区長会 副会長 廣澤嘉成
3. 美浜町老人クラブ連合会 会長 梶田義之
4. 美浜町老人クラブ連合会 副会長 磯貝通彦
5. 美浜町民生委員協議会 会長 大崎九郎右衛門
6. 美浜町民生委員協議会 副会長 富谷茂充
7. 美浜町文化協会 会長 野田久吉
8. 美浜町文化協会 副会長 山本和久
9. 美浜町文化協会 副会長 平野梅代
10. 美浜町体育協会 会長 木村泰三
11. 美浜町体育協会 副会長 廣重弘和
12. 美浜女性の会 会長 山本せつ子
13. 美浜女性の会 副会長 川平美代子
14. 美浜町PTA連絡協議会 会長 藤田一夫
15. ふれあいネットワーク美浜 代表 猪口美千代
16. ふれあいネットワーク美浜 理事 都筑初子
17. 美浜町消防団 団長 渡邊光雄
18. 美浜町消防団 副団長 都筑長武
19. 美浜町社会福祉協議会 会長 榊原昭二
20. 美浜町社会福祉協議会 事務局長 清水照久

午前の部 生産・経済団体関係者との意見交換



午前の部は、美浜町内で活動する生産・経済団体の関係者を対象に、まちづくりミニフォーラムを開催した。取り組み内容を説明し、団体の枠組みを超えて美浜町のまちづくりに関する意見交換を行った。

1) 美浜町商工会

- ・事業者の支援機関として美浜町を見ている。
- ・美浜町内では工業の育成が弱い。
- ・昔と比べ商業のイメージが変わっている。歩いて買い物に行く形から車で都市へ出掛け、店に行くようになったので、高齢者は買い物難民になりつつある。
- ・観光業は、道路整備により滞在型から日帰り型に変わった。旅館業は厳しい。
- ・美浜町内の魅力づくりが課題。
- ・観光の町としての活性化 = 魅力づくり = まちづくりである。
- ・人口減少によって、会員（商業者）は経営が厳しくなる。
- ・後継者不足により廃業する会員が100件ほどあった。
- ・美浜町内に大型店の出店があり、事業悪化の影響を受けている。
- ・商店街の1箇所集約プラン。
- ・奥田駅の再開発による学生顧客の取り込み。

2) 美浜町観光協会

- ・体験型の観光を模索しているが、なかなか成果には結び付かない。
- ・業績が落ちる一方なので、まず企画を立てて取り組み、それから問題を処理している。
- ・漁業を中心とした観光や商店、お土産物屋、民宿などの施設に分けて企画を練っている。
- ・現在取り組んでいる事業の中には、大河ドラマに関連した源頼朝公に関する企画も

始めている。

- ・潮干狩り、みかん狩りについての母体がある。
- ・リーマンショック、大震災以降、観光業は厳しい。
- ・美浜町内にある旅館の後継者問題。
- ・観光として美浜町を見てみると、資源が多いので掘り起こす工夫が必要。
- ・住民の中には美浜町の史跡を知らない方もいるので、しっかりと情報発信を行う。
- ・自然を活かした体験型観光の情報を発信する。
- ・PR方法として、フェイスブック、ツイッター、ホームページ作成に取り組んでいる。
- ・商工会と連携し、例えばクリーニング屋のしみ抜き体験教室やケーキ屋のバレンタインチョコ作り、体験などを提案したい。
- ・仕事場見学、仕事紹介を上手に発信しまちづくりに活かす。
- ・学生サークルの合宿に美浜町内の旅館を利用してもらおう。
- ・海苔養殖業者の後継者問題が深刻化している。
- ・新しい潮干狩りの提案 → 海で遊び、陸でも遊べるようにする。
- ・東海岸、西海岸問わずトイレや手洗い場の施設を整備しないと観光客の集客が難しくなる。

3) 南知多ビーチランド

- ・震災の影響がどこまであるか不明だが、来場者は減少している。
- ・民間企業なので、他団体とのタイアップが重要。
- ・企業のCSRのお手伝いとして、海岸清掃の話がある。
- ・園内には食事処はあるが美浜町独自のものではないので「頼朝御膳」などとタイアップしたい。
- ・園内の新しい観光スポットとして、バイカルアザラシの爪は滑らないことにあやかり「滑らない神社」を作ったところ、マスコミからの取材があった。
- ・リピーターが増える展示や催しの工夫を図る。
- ・年配者に名古屋鉄道のハイキング途中で立ち寄ってもらったので、イベントの開催はありがたい。
- ・「地域とともに」というキーワードを掲げており、美浜町が盛況になるよう努力したい。

4) 美浜町漁業協同組合

- ・採貝漁業、海苔養殖、定置網漁業、潮干狩り漁業に取り組んでおり、気象や自然環境に左右される。
- ・平成 20 年は、節足動物の発生により採貝漁業は大きな打撃を受けた。
- ・高齢化や後継者不足により、年々漁業経営者数は減少している。
- ・海苔養殖は昭和 35 年ごろから開始し、昭和 51 年ごろに海苔生産の機械化を進めた。
- ・海苔養殖経営者は、海洋汚染、自然環境の変化、設備投資、後継者不足などの問題で大きく減少し、現在は 2 経営者しかいない。
- ・定置網漁業では年々魚が減少し、経営者の高齢化もあって、網や船の投資は行われていない。
- ・潮干狩りは、震災の影響で入場者数が大きく減少した。
- ・アサリの生育には、自然環境もあるが養殖できる環境整備や保全が必要である。
- ・今後の課題として、営利目的の漁場改革、設備の近代化、経営者の高齢化や後継者不足の改善がある。

5) あいち知多農業協同組合

- ・現在の組合員数は、5 市 5 町（知多半島全域）で 6 万人の組合員がおり、その中で美浜町は 4,500 人くらいである。
- ・美浜町には、正組合員の農家世帯は 1,800 戸ある。
- ・現在は、正会員が減少し準組合員が増加している。
- ・事業展開の主体は、営農指導や農作物の販売、農業を中心とした暮らしの応援である。
- ・知多半島内にはアンテナショップ 2 軒と関連会社である「げんきの郷」がある。
- ・美浜町には南部の拠点として位置付けられている営農センター、畜産センター、精米所がある。
- ・後継者不足が問題となっている中で、Uターン、転職、実家の農業を継ぐなどの理由などで 40 名程度の後継者がいる。
- ・みかんの産地なので、ブランド化を目指している。
- ・生産に関していえば、残留農薬や放射能等、消費者は安全性を求めている。
- ・原油が高騰すれば、生産資材が値上がりし、農家経営は厳しくなる。
- ・販売に関していえば、今までは市場一辺倒の販売スタイルであったが、現在は半分を市場で、残りは直接販売されている。

- ・現在、農業協同組合本部に特販部という部署ができ、大手スーパー、旅館、給食などに直接販売している。
- ・美浜町内にグリーンセンターという直売所を立ち上げている。
- ・農家の高齢化や後継者不足は深刻ではあるが、若手農家が後を継ぐケースは見受けられる。より深刻なのは嫁不足である。
- ・農家へのアンケート結果によると、高品質の農作物を出荷すればブランド化できる意識はある。
- ・段ボールに詰めて出荷するのではなく、スーパーに直接陳列するような施設の要望がある。
- ・販売要望は、市場出荷、契約販売、量販店、直売の順で多かった。
- ・今後の経営方針は、60%が現状維持、30%が規模縮小か辞めるであった。農地に関しては、貸したい10%、借りたい5%、売りたい4%、考えていないが77%であった。
- ・耕作放棄地問題の解消には、農地の有効活用が必要なので、農地の貸し借りの蓄積を進めていきたい。
- ・美浜町で生産されている主なみかんは、「みはまっこ」、「さわみっこ」、「あまみっこ」の3つである。
- ・きゅうりに関しては、農家戸数と栽培面積は減っておらず、出荷量は増えている。
- ・竹藪が多いので、タケノコの出荷と竹藪の整備を進めていきたい。

全体討論

- ・きゅうりの評判が良いみたいだが、全国的にはトマトが注目されている。良い物を生産しているが、情報不足や連携が上手くいっていないのではないかと。知多牛も同じで、入手方法、販売方法、宣伝方法などの連携や情報が不足している。
- ・野間区長、ビーチランド、老人会、観光協会が一緒になって源義朝公を活用し、地域を盛り上げる話を進めている。農協さんとも体験プログラムづくりを一緒に行っている。これから力を入れていきたいことは、みかんのオーナー制度だ。オーナーさんが収穫などで美浜町を訪問し、旅館に宿泊してもらうなど組織間で連携していきたい。
- ・みかんのオーナー制度は、美浜町職員が中心に行ってきた。去年（平成22年）から農協単独で続けており、一般公募を取りやめ、生協組合員の会員を中心に声を掛けている。路地みかんは、Uターン者、定年帰農者が細々と続けているので、このような担い手を増やしていきたい。

- ・後継者の問題は、どの業種も抱えている問題ではあるが、生計を立てられるのかがネックである。若い人の取り組みにあまりクレームを付けず、必要があれば修正を行っているが、これだけで後継者を育成することは難しいと考えている。
- ・地域の八百屋や魚屋が衰退しており、高齢者は大型店に行くのは難しいことから移動販売を開始した。野間支部が中心となって取り組んでいるが、商工会の主な事業への格上げを検討している。ただ、人手、車、設備、時間などの課題が多く、本業を抱えた会員の負担が大きい。高齢化した地域の生活を手助けしたいという意気込みで取り組んでいる。
- ・移動販売を始めた以上は継続が必要で、高齢者が困らないように手助けをしたい。一番困るのは、車である。軽トラで行っているのですが、商品を並べる手間、夏場の保存という問題がある。区によっては、区長が高齢者を移動販売場まで送迎してくれる。
- ・美浜町全体をつなぐ連携を考えた場合、情報交換のできる場が必要ではないか。
- ・商工会は支援機関だが、金、人、場所も無い。しかし、案の一つとして美浜町内に増えている遊休地を活用し、朝市や土産物屋や青空市などをしてみたい。また、商業、観光協会、行政の一部などが一カ所に集まり活動すれば面白いと思う。ハイキングに関しては、地域の名所や史跡に立ち寄って頂き宣伝効果を含め期待が大きいので、協働で取り組む工夫を考えたい。長野県に潮干狩りの宣伝に行くが、アサリがほとんど採れないとがっかりされる。アサリが定量的に採れるよう、養殖や海の環境整備が必要ではないか。
- ・アサリが沢山採れればと美浜町の漁民も考えているし、美浜町漁業協同組合も活性化する。アサリで生計を立てているので対応したいが、若手の組合員でも60代ということもあって、なかなか案が出てこない。アサリで儲かれば、後継者ができるが、現状は厳しい。やはり、自然繁殖で増えるようにしないといけない。

午後の部 住民団体関係者との意見交換



午後の部は、美浜町内で活動する住民団体の関係者を対象に、まちづくりミニフォーラムを開催した。各団体の取り組み状況、連携提案など、美浜町のまちづくりに関する意見交換を行った。

1) 美浜町区長会

- ・ 現在、町内には 18 の行政区があり少子高齢化の問題を抱えている。
- ・ 少子化においては、小学校の存続も危ぶまれている。
- ・ 生活面では、高齢者世帯や老人の独り住まいも多く、災害への備えは少ない。
- ・ 自然環境の面では、農業従事者の減少や耕作放棄地の増加により、農地が荒れている。
- ・ 川は、めだか、フナ、鯉が激減し、外来種が増え、生活排水の影響で自然環境は激変している。
- ・ 美浜町内には、傷みがひどく倒壊の危険性もある空き家がある。
- ・ 街路樹の剪定が滞り、通行の妨げになっている。
- ・ 道路は傷みが激しく、脇の側溝は蓋が閉められ、掃除ができない。
- ・ 防災は、対策が整備されておらず、町と区の連携、役割分担、様々な対応のマニュアル化を決めなければならない。
- ・ 人のつながりを強化し連携を密にすることで、区民の満足度を上げていかなければならない。
- ・ 災害時の個人情報問題がある。3割程度しか把握できていないので、町民の安否確認に行政でも時間が掛かってしまう。

2) 美浜町老人クラブ連合会

- ・ 幸せな毎日を送っている。
- ・ 交通安全について熱心に実習や講習に取り組んでいるが、そればかりに取り組んで

いるという声も聞かれる。

- ・地域の老人会に関わっているが、他市と比較すると値段は安い。ただし、美浜町の施設を借りると結構なお金が掛かる。

3) 美浜町民生委員協議会

- ・65歳以上の独り暮らし高齢者のお世話をしている。
- ・田舎なので地域の事は良く知っているが、区画整理をして新しい家が建つと分からない事もある。
- ・日常生活の調査内容を民生委員、社会福祉協議会に提供することを同意してもらう。今後、情報提供の効果が現れると考えている。
- ・生活保護受給者が病院に行けず亡くなったことがあり、セーフティネットの必要性を痛感している。
- ・防災マップを作成し、独り暮らしの高齢者を安全な場所へ誘導したい。

4) 美浜町文化協会

- ・若い人達が文化協会に入りづらいようだ。
- ・文化協会はジャンルが幅広く、ピンポイントの対策がやりにくいと考えている。
- ・行政が生涯学習に力を入れているようなので、何かサポートや連携ができればと考えている。
- ・美浜町主催の文化祭は、団体が文化協会に加盟していなくても町民なら参加出来るので、加入の必要性が薄れてしまう。

5) 美浜町体育協会

- ・現在、大人を対象とした種目は13種目あり、約2,000名が登録、子どもを対象とした種目は18種目で約700名が登録している。
- ・子どもの登録者数が減少し、大会の開催が難しい種目もある。
- ・日本福祉大学の学生が多数登録しており、大会が盛り上がる一方で、同じ土俵で戦うことに不満を持つ住民もいる。
- ・学生は在学中しか登録できないので、協会の役員等はしない。
- ・体育指導委員会と日本福祉大学が連携し、スポーツクラブの設立を目指している。
- ・地域コミュニティを組織し、生涯学習とまちづくりをつなげていく必要がある。
- ・防災教育は、マップを作成して終わりではなく、地域で徹底することが大事である。

6) 美浜女性の会

- ・ 厳しい情勢の中、美しい町だけでは生活はできない。
- ・ 住みやすく、安心して住める町を残さなければならない。
- ・ 若い人が住みやすく、若い人口が増えるようにしなければならない。
- ・ 女性の会は 15 団体あり、女性の立場で何ができるのかという観点で活動をしている。
- ・ 今後、女性の代表として議会などへ送り込みたい。

7) 美浜町 P T A 連絡協議会

- ・ 学校の状況を説明すると、美浜町の子どもは大変おとなしいそうだ。
- ・ 学校、家庭、地域の三位一体で子どもを育てていきたい。
- ・ 通学の登下校時に、老人会の方々が送り迎えをしてくれるので、守っていただいていると感じる。
- ・ 奥田地区の山王川沿いの道が狭く、歩道を造って欲しいと要望を出したら、受け入れられた。
- ・ お母さん方からの伝言で、北保育園の右折ラインが全然見えない、総合公園のテニスコートの休憩所の屋根が壊れている、武豊町から延びる道の信号矢印が短いということだ。

8) ふれあいネットワーク美浜

- ・ N P O 法人として活動しているが、行政や他団体から「どうかね N P O は？」の声掛けが無いのは寂しい。
- ・ 大学生が研修に来た時、高齢者が大喜びしていた。
- ・ 自分たちだけで活動をしていると、なかなか情報が入ってこない。
- ・ 地域に入ってきた若い人達とコミュニケーションがあまり取れないので、昔の隣組が必要ではないかと考えている。
- ・ 通所介護をしているが、高齢者が住んでいる家あまり恵まれていないと感じるので、美浜町内の空き家を整備し、住ませてあげて欲しい。
- ・ 隣組で顔を合わせることが、一番のまちづくりの原点ではないか。
- ・ 若い人達との接点をつくりたい。
- ・ 趣味の集まり、ボランティアの集まりに参加しても、若い人達はあまりいない。

9) 美浜町消防団

- ・美浜町内の消防団の沿革と現状としては、明治 39 年 7 月に消防組が設置され、大正 15 年 1 月に河和町の集落の消防組が設置された。昭和 8 年 1 月に美浜町内の各集落に消防組が設置された。昭和 22 年 10 月に消防組から消防団に改められた。昭和 30 年 1 月に河和町と合併し、昭和 32 年 1 月に会員 600 人という団体になった。
- ・消防団として東南海地震が発生した時、どのような活動ができるのかが心配である。
- ・津波が発生した時にどこへ住民を避難させるのか、6 分団それぞれ高台や避難場所の確保が必要ではないか。
- ・団員の確保が課題となっており、若い学生が参加できる環境を整備していきたい。

10) 美浜町社会福祉協議会

- ・子どもを地域で育て、子どもの安全・安心を守っていきたい。
- ・次の世代が責任を持って良い美浜町をつくっていく義務があるのではないかと考えている。
- ・武豊町、美浜町、南知多町の 3 町に巡回バスが走っているが、相互乗り入れをして欲しい。
- ・名古屋市の事例で、学生と高齢者が交代で食事の準備をするなど、同じ屋敷内で共同生活をしていた。美浜町でもできれば、学生が卒業しても美浜町から出ていけないのではないか。
- ・若い人が住みたくなるような美浜町にしなければならない。
- ・社会福祉協議会は、まちづくりに福祉の分野で参加している。
- ・障がい者支援を行うボランティアの育成を行っている。
- ・東日本大震災の支援として、美浜町社会福祉協議会の職員 3 名が、3 週間にわたって防災コーディネータとして、後方支援や裏方業務を担った。

全体討論

- ・色々な組織があるが、なかなか力を発揮しにくい。また、若い人を入れて組織全体を発展させていきたい。
- ・地域を元気にしていく切り口が大事である。
- ・美浜町と区と区域が一体化しないといけない。区と区域の繋がりが捉えにくいし、区と町の連携が取りにくい。
- ・地域の行事には、女性や若い人に参加して欲しい。
- ・女性の参加を促すのであれば、口コミが強いのではないか。

- 本日のような場に、若い人を呼び、意見を述べていただく必要があるのではないか。
- 学生の意見として、美浜町がどのような町だったら住みたい、働きたいと考えているのか知りたいし、このような切り口であれば各団体からの意見や考え方はもっと出てくるのではないか。
- 学生と地域の交流はどうなっているのか。

美浜町まちづくりミニフォーラムの考察

生産・経済団体（午前の部）

生産・経済団体によるまちづくりミニフォーラムでは、各団体の活動内容、現状と課題について紹介された。主な内容は、①社会経済状況の悪化、②地域資源の掘り起し、③新しい情報発信の取り組み、④地域内の協働や連携の必要性、⑤高齢化や後継者不足による経営の撤退、⑥高齢者が生活しやすいまちづくり、などであった。

社会経済状況の悪化を背景に、高齢化や後継者不足による経営の撤退が増え、各団体の取り組みだけでは改善が難しい状況である。対策の一つとして、新しい情報発信手段であるツイッターやフェイスブックに取り組む積極的な姿勢も見受けられた。また、これまで細々とした協働や連携は行われていたが、社会経済状況の悪化が顕著になって以降、住民団体を巻き込み、地域社会という枠組みの中でまちづくりの新しい展開が進められていた。

また、まちづくりミニフォーラムのような意見交換の場を充実すべきとの意見が参加者から寄せられた。各団体は個別に様々なアイデアを温めているが、団体が相互に意見交換を図る場がほとんど無い事から、重点的な連携までには発展していない。今後は、様々な団体間を結び付けるネットワークの構築、協働や連携をサポートするコーディネータの存在が必要ではないかと考えられる。

美浜町のまちづくりという視点から生産・経済団体の活動を考えた場合、単に経済活動や地域活性化のみに限定せず、営利活動と社会貢献のバランスを図りながら、10年、20年先を見越した持続可能な活動が求められている。厳しい社会経済状況を各団体が生き抜くためには、協働や連携につながる交流の場づくりやその整備、また新しいツールの有効活用が必要な事から、交流の場をどのように設定し運営すればよいのかという課題が明らかとなった。

住民団体（午後の部）

住民団体によるまちづくりミニフォーラムでは、各団体の活動内容、現状と課題について紹介された。主な内容は、①少子高齢化問題、②コミュニティの再生、③住民の主体性や参加姿勢、④若い人の取り込み、⑤地域のつながり、などであった。

美浜町は、人口減少に加え、少子高齢化という人口構造のアンバランス化が課題となっている。そのことにより、生産・経済団体の事業規模の縮小、あるいは事業撤退などの影響が顕著となっており、雇用の減少や生活必需品の調達が不便になるなど、生活の

質が低下し始めている。この現状に少しでも歯止めをかけなければ、美浜町の将来展望を描くことは難しい。

また、各区単位であっても住民同士のつながりが希薄化し、顔の見えにくい状況が指摘されており、災害時の対応、高齢者や子どもの生活に支障が出る事を危惧している。幸い、長く美浜町に居住している住民で構成された美浜町民生委員協議会や美浜町区長会は、住民にとって頼もしい存在だが、新規転入者や若い世帯の把握に時間が掛かるなど、対応が後手に回ってしまうことを心配する意見もあった。

多くの住民団体は、活動を通じてコミュニティの再生、地域のつながりに貢献するなど、行政とは異なる役割を果たしている。しかし、各団体のみで活動が完結している傾向があり、このままでは活動の広がりや発展を期待することは難しいのではないかと考えられる。全体討論では、これまでの活動だけでは十分な効果が発揮しにくいことから、若い世代の参加を促し、団体の発展につなげたいという意見が多く寄せられた。若い世代の参加を促すことは、若年層の人口減少や労働の長時間化などの社会的な要因を考えると、一朝一夕に解決できる問題ではない。各団体の活動は、住民生活の質向上に重点が置かれていること、活動領域の重複が見られることから、各団体の得意分野と苦手分野を的確に把握し、連携を図ることによって、まちづくりの発展が期待できる。

住民団体で活動する多くの住民は、地域社会のために日々奔走している。本来、まちづくりは特定の住民だけが担うものではなく、美浜町で生活を営む多くの住民が主体的に参画していくことが望ましい。まちづくりの輪を広げていくためにも、住民団体及び活動に対する理解を深めることが必要である。

全体を通じて

まちづくりミニフォーラムの開催は、各団体の存在意義、役割、成果を共有することにつながった。各団体は、いずれも多くの課題を抱え、負担の大きさが明らかになったが、団体間での連携を推進することによって、課題の解決や改善が期待できる。美浜町のまちづくりという視点で考えた場合、定期的に様々な団体が集い、意見交換が可能な場を設定する必要性は高い。あわせて、団体関係者以外の住民同士も集い、意見交換が可能な場の設定も検討する必要がある。

以上